

## 南米チリへの 1958/60 遠征－63/60 年レビュー

### 1. はじめに

1950 年代の後半、神戸大学山岳会(ACKU)はチリ山岳連盟(FEACH)との合同登山のため二つの遠征隊をチリに派遣した。これらのパタゴニアとチリ中央アンデスへの遠征結果は日・英・西語で記録され、ACKU アーカイブに収められている。63 周年又は 60 周年レビューを含むそれぞれの遠征の詳細報告は ACKU ホームページの **First Ascent** に収録されているが、下記にはその概要を紹介する。

### 2. Expedition 1958 to Patagonia

#### －日本とチリ両国の登山を取巻く情勢

1950 年代後半の日本の山岳界では国家 project として実施され Himalaya の 8000m 峰の登頂成功の影響もあり、ACKU でも海外の山への志向が話題になるようになった。ここで浮かびあがったのが第 2 次大戦前から我が大学との関係が深かった南米であり、当時の ACKU 会長田中 薫教授の南米調査旅行の機会を利用しての各国の山岳団体との接触の結果、対象地域がチリに収斂したのである。

当時チリではアンデスの高山への近代登山が本格化し始めていた時期であり、同国の FEACH 傘下団体にも氷雪の技術を取得した若手クライマー数が増えつつあった。

この時チリに立ち寄った田中教授が FEACH 会長に会い、同国での合同登山の実施が合意されたのである。

#### －日本とチリの合同遠征の合意

同国では国内登山の活発化に伴い、特に若手の登山者向けの本格的な装備品への需要が増えるものの、外貨制限のため入手が困難な状況が続いていた。

一方、我が国では国を挙げて成功した Mt. Manaslu 登頂のために開発された装備類、当時急速に進化していた高度合成繊維を使った軽量テント・衣料品等が豊富に市場に出回っていた。

両国が自国に欠けていたものを補うことでギブ&テイクの関係が成り立ち、日本側は装備類一式をチリに持ち込み遠征終了後 FEACH にその全てを寄贈する。一方、日本隊の滞在費一切をチリ側が負担することでバーター的な取組みが成立し、両国による合同登山のための登山隊の編成が実現した。

なお、1958 年当時の日本の外貨事情は厳しく、日本側隊員と装備品の運搬はチリ Valparaiso 港まで定期貨物船に便乗し、往復の旅費一切は円払いとの条件で貴重な外貨節減に努めた。

#### －登山対象山岳の選定

合同遠征という枠組みの中で登頂目標を絞り込み、目標を決定するのは決してやさしいことではなかった。例えば日本側では未知の高い山に登りたいという常識的な基準しか持ち合わせなかった。当時、まず岩と氷で注目され始めていたパタゴニア南北両氷陸が候補に浮上し、最終的には北氷陸の南部山域にある最高峰である Co. Arenales (3365m) が目標となった。コロニア氷河の背後にそびえるこの山は全山塊が雪氷に包まれ、北氷陸の南の女王とみなされる美しい処女峰であった。

#### －人跡未踏の Patagonia の氷陸に挑む

対象山塊は全くの未踏査地域の最奥にあった。そこへの approach は数軒の入植者の農場があるだけの Baker 川の流域を馬で進み、最後は人跡未踏の Colonia 湖をボートで渡って Base Camp を設営した。

ここから 5 か所の高所 Camp を出して極地法で展開した Co. Arenales の登頂の過程と総括 (63<sup>th</sup> Review) は First Ascent (Exp 58) の Documents A - D を参照願いたい。

## CHILE-JAPAN JOINT EXPEDITION TO PATAGONIA-1958 (63th Anniversary Review)

(日本語ページ)	(English Part)
[HPアップ記事(posted article)]* 日本・チリ合同パタゴニア遠征から63年 —1958年のアレナレス岳登頂と同山域の踏査について— ACKU Journal No. 22, April, 2022, p109-133 (with Translation Guide).	63th Anniversary Review of Chilean-Japanese Expedition to Patagonia, 1958—Ascent of Cerro Arenales and Exploration of Adjacent Areas* with Frontispiece photo of Co. Arenales. (Summary of ACKU Journal No. 22 article) Complete List of references for Review article in ACKU Journal No. 22*
[リンク記事](Link article to outside source) アレナレス山の初登頂—日本・チリ合同パタゴニア・アンデス探検(1958年) 日本山岳会「山岳53年」(1958/pdf #9-36) ( <a href="http://jac.or.jp/sangakuhensyuu/1958optimisation.pdf">http://jac.or.jp/sangakuhensyuu/1958optimisation.pdf</a> )	Ascent of Cerro Arenales, Japan-Chile Joint Expedition to Patagonia, 1958, JAC Journal (Sangaku), vol. 53 (1958) Japan Alpine Club* (outline)

Note:Files\* are posted in *First Ascent* of ACKU HP.

### 3. Expedition 1960 to Chilean Central Andes

この遠征は 1958 年の Patagonia への Exp 58 と同じ仕組みで企画され、実現したものである。Exp 1958 が Co. Arenales の初登頂を達成して合同遠征の成果を実感して終わった後、両国の隊員間に芽生えた友好関係を次世代の若手登山家の育成につなげようというものであった。具体的には 5000m 級の未踏峰が多く残るチリ中央アンデスを対象として計画が組まれた。合同登山運営の基本的な枠組みは Exp 1958 に倣い、チリは FEACH、日本は ACKU が主体となって若手の卒業生 2 人と学生隊員 1 人が派遣された。一方、チリ側は FEACH に作られた “Academia” という新しい組織を通して傘下の支部から参加者を募ったのであった。加えて、Exp 1958 に参加したメンバー 3 人が加わってくれた。合同登山の対象は 3 山域が選定され合計 70 日間の合同登山を行った。なお、第 1 山行/Yeso 谷と第 3 山行/Rio Colorado 流域の登山 party のチリ側 leader は 1958 の Patagonia での合同登山の経験者が務めてくれた。

Exp 60 の対象山域は首都 Santiago の西側に連なる “首都の裏山” である。当時このチリ中央アンデスには未登の中級山岳が数多く残されており、合同山行の期間中に 12 座の頂上を踏み、その中の 8 座は初登頂であった。Exp 1960 の期間に行われた 3 山域の踏査と登山活動の成果は、その後のチリでの登山用 Andinista 地図(1/50,000)作成に部分的ながら情報を提供している。例えば、合同登山の過程で命名された複数の山名が上記の地図に採用されていることからそれがわかろう。

Exp 1960 の記録と総括 (60<sup>th</sup> Review) の詳細は First Ascent(Exp 60)に収録した Document A - D を参照したい。

## JOINT EXPEDITION TO CHILEAN CENTRAL ANDES-1960 (60th Anniversary Review)

(日本語ページ)	(English Part)
[HPアップ記事(posted article)]* 日チ合同チリ中央アンデス遠征から60年によせて ACKU News 45/Feb., 2021, p36-46	60th Anniversary Review of Chile-Japan Joint Expedition to Chilean Central Andes-1960* (Summary of ACKU News No. 45 article)
[HPアップ記事に添付]* 登山写真集(Climbing Photo Album) As for English captions, please refer to the right file. →	List of translated Captions (English) for Climbing Photos, Chilean Central Andes, 1960*
[リンク記事](Link article to outside source) チリ中央アンデスの山々—第2次日本・チリ合同遠征(1960)— 日本山岳会「山岳56年」(1961/pdf #158-181) <a href="http://jac.or.jp/sangakuhensyuu/1961optimisation.pdf">http://jac.or.jp/sangakuhensyuu/1961optimisation.pdf</a>	Chilean Central Andes, 1960, JAC Journal (Sangaku), vol. 56 (1961) Japan Alpine Club* (outline)

Note:Files\* are posted in **First Ascent** of ACKU HP.

#### 4. むすび

これらのチリへの 2 遠征は合同登山という、これまでなかった実施形態による成功であった。登山の成果を通じ、当時わが国では比較的なじみの薄かった南米の太平洋の西海岸にあったチリの紹介に貢献した。これらの遠征は当時の日本の有力新聞であった毎日新聞社の後援を受け、南北に広がったチリの国土の南端と中央部の極端に異なる地理と風土の中での合同登山の様子や啓蒙記事を各種の media を通じて日本で初めて報道した。下表にあるこれらの基幹資料一切は ACKU の Archives として保存されている。“First Ascent” で参照された登山活動の記録類ともども、1900 年代後半の ACKU の海外登山の歴史を後世に伝えるものである。

### チリ2遠征 Exp 1958 & 1960 の一般報告

遠征 (Exp.)	公式報告	その他
パタゴニア 1958	日本山岳会 山岳 No.53, 1958	単行本 (毎日新聞社)
		映画 (白黒:現地撮影・編集・配給は毎日新聞社による/現在英語字幕を加えたものがチリ国内を中心にU-tubeにアップされている <a href="https://youtu.be/PHUQxWzTJ50">https://youtu.be/PHUQxWzTJ50</a>
チリ中央 アンデス 1960	- 同上 - 山岳 No. 56, 1961	毎日新聞社の遠征後援社告(1959/S 59.11.13), 帰国第1報(1960/S35.7.4)及び特集記事(夕刊)“南米の白い尾根”(上)(1960/S35.7.22).

豊田寿夫 (ACKU 会員) : Exp 60 参加